

第1回 2009年10月31日（土）

時間	13：00～14：30
講演題目	グリーンコンピューターへの道 ―計算の低消費電力化―
講師	奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 教授 中島 康彦 講師の紹介はこちら
講演内容	<p>IT機器の消費電力は、2025年には国内消費電力全体の20から25%を占めると言われている。</p> <p>実際、最近では、数百ワットもの電力を消費するデスクトップコンピューターが巷に溢れている。この技術的・歴史的背景を概観し、コンピューターが電力を消費するとは、具体的にどういうことであるのか、また、このような状況が消費者の購買行動と密接に関連していることについて、わかりやすく解説する。</p> <p>さらに、低炭素社会に適合できる省エネコンピューター（グリーンコンピューター）実現のために、どのような技術的方策があるのかについて、特に、プロセッサアーキテクチャの視点から、今後の可能性を解説する。</p>

時間	14：45～16：15
講演題目	植物の名になった二人の女性
講師	同志社女子大学 表象文化学部 日本語日本文学科 教授 吉野 政治 講師の紹介はこちら
講演内容	<p>草木の命名の由来はさまざまである。あるいはその花や枝葉の形や生態から付けられ、あるいはその用途から、あるいは子どもの遊びの中からできたものもある。</p> <p>それぞれの名の由来を知ることによって、それらの草木がかつて人々の日常生活の中でいかに身近なものであったかを知ることができ、それまで気にも止めなかった雑草が親しく大切な存在に変わってくる。</p> <p>草木の名には人の名前が付けられたものもある。その人物は、広く人々に用いられている草木の名前の場合には、誰もがよく知る歴史上の人物であることが多いが、植物学の世界で用いられている名前の場合には、その命名者や命名者に関係する特定の人物であることが多い。</p> <p>本講座ではその中から植物学者牧野富太郎の妻寿衛子とシーボルトの愛人お瀧を取り上げる。</p>

[▲このページの先頭へ](#)